

**編集後記：**休暇でカナダを訪れました。日本よりも秋の進行が早いのは自明ですが、体感するとその違いは鮮明です。日本では9月に入っても、初旬は連日のように最高気温の記録がニュースとして報道されました。一方、バンクーバーのあるブリティッシュ・コロンビア州では、9月中旬には早くも紅葉の見ごろになっていました。本州に比べて、2か月近く季節が進んでいる感じです。バンクーバーから車で標高をかせぎながら高原の都市カルガリーに入ると気温もぐんと下がり、折しも運悪く今年の初雪と重なってしまいました。郊外の住宅地では庭に雪だるまが出現するほどの積雪で、日本からの移動で真夏と真冬ほどの違いを感じました。雪がやんだ後、世界自然遺産のカナディアン・ロッキーでは、色付いた木々が雪に覆われて見事な景色になっていました。カナダの雄大な自然は、湖や氷河に加え紅葉も美しいことで知られていますが、どこか色合いが単調で黄色系の葉ばかりが目立ち

ます。対して、日本の紅葉は多彩で景色の立体感が際立つような気がします。植生のくわしい知識はありませんが、日本の山の方が多様なのでしょうか。

カナダに遅れること約2か月、日本でも紅葉のシーズンになり、色の変化に心を動かされる人が多くなっていると思います。暑い国や寒い国を訪れて思うのですが、極端な暑さや寒さが少なく、四季の区切りがはっきりと感じられるというのは恵まれたことです。いかに夏が暑くても、秋には鮮やかな色に変わり、冬の山は白くなるわけで、どの季節にも味があり、行楽の選択に迷ってしまいます。もちろん、同じ北半球なのに飛行機に10時間乗っているだけで季節の感覚が真逆になってしまうのは、たまりませんが。

2度目の季節の移ろいを感じながら、冬には冬の楽しみに期待が膨らみます。

(笠原真吾)